

平成 31 年 4 月 15 日

政務活動費行政視察報告書

視察期日 平成 30 年 7 月 6 日

視察地及び項目 東京都杉並区立天沼小学校「ICT 教育」

視察参加者

公明党 吉川 義郎、西川 和男、今村 弘志

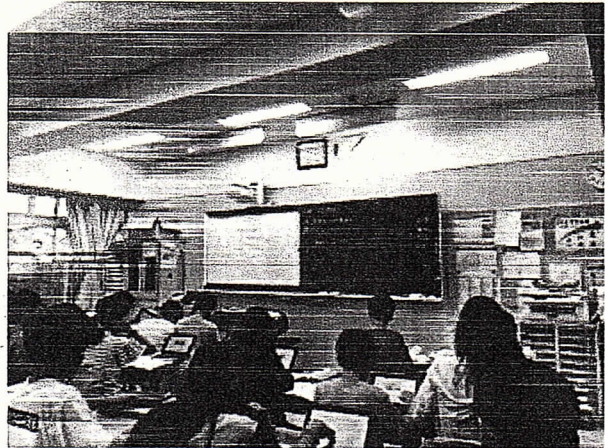
視察内容 別紙のとおり

報告者 (氏名) 西川 和男 (印)

別紙について (視察内容)

(視察内容)

天沼小学校は、ICT機器 (Information and Communication Technology= 情報通信技術) を取り入れた授業を積極的におこなっています。天沼小学校は、杉並区の「ICT の活用に関わる研究」における「教育課題研究指定校」に指定されています。全教室に無線 LAN やプロジェクターが設置され 4 年生以上の全児童に 1 人 1 台、専用タブレットがあり日常的に活用し文房具感覚になっています。その授業の取り組みを見学させていただきました。



校長先生からは「とにかく学ぶ楽しさ。喜びを感じることを教育目標に掲げ取り組んでいます。」との話し。その言葉通り、児童のみなさんの積極的なこと。学ぶ楽しさが伝わってくるでは、ありませんか！

ICT機器であるタブレットや電子黒板などを上手に使いながら、授業内容への興味関心を導き、そこから内容の核心へ向かうプロセスは見事でした。

デジタルとアナログの良さを上手く融合させた授業。たいへん勉強になりました。

他にもコミュニティスクールとして現在、地域の皆さまが学校の応援団として関わってくださっているとのこと。

そこでポイントとなるのが、学校と応援団を結ぶコーディネーターの存在が大きいそうです。大いに参考となったのでした。

7/6 杉並区立天沼小学校視察 質問事項

Q：小学4年生以上の児童1人にかかるタブレット貸与について
リースなのか、購入なのか、補助金の活用があるのか。

A：タブレットは全てリースで補助金活用はされていない。

杉並区としてICT教育の為に一般財源から10億円が予算化されている。本校では240台のタブレットが活用されている。

Q：電子黒板は各教室に設置されているのか。

A：各教室に電子黒板付プロジェクターが設置されています。

Q：支援学級でのICTの活用方法はどのように行われているのか。

A：支援学級ではiPadが一人一台貸与されています。児童は個々によって障害が違うので使用内容についてはバラつきがありますが、お絵かきやカメラ機能を活用して人や物の動きを学んでいます。

Q：ICT支援員について（勤務体制、人数、人件費）。

A：杉並区としてベネッセに委託しICT支援員を派遣していただいています。機器の故障やシステムの不具合、先生へのサポートをしていただいています。本校はモデル校で月4回の訪問をして

いただいている。

Q：プログラミング教育の教材は何を使用されているのか。

A：小学1年生で「PETS」（ペット）、4年生以上はアワーオブコードを使用しています。

Q：遠隔授業の実施状況について。

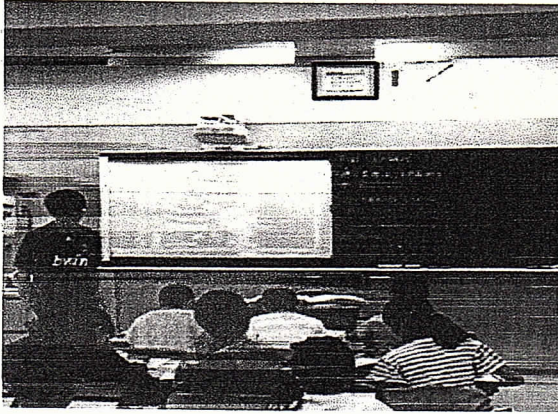
A：区内では中学校2校がオーストラリアとテレビ会議を行っているだけです。

Q：英語を含めデジタル教科書の活用状況について。

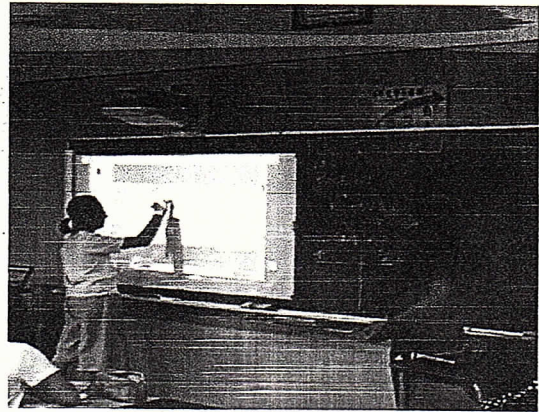
A：スクールサポートネットワークがあり、コーディネートされています。英語の授業はデジタル教科書の活用と併せてクラス担任と一緒にNPO法人やALTに行っていたいただいている。

Q：児童の授業の理解度や学業の評価はどのように図られているか。

A：特にICT教育という事での評価はしておらず、従来通りの評価をしています。



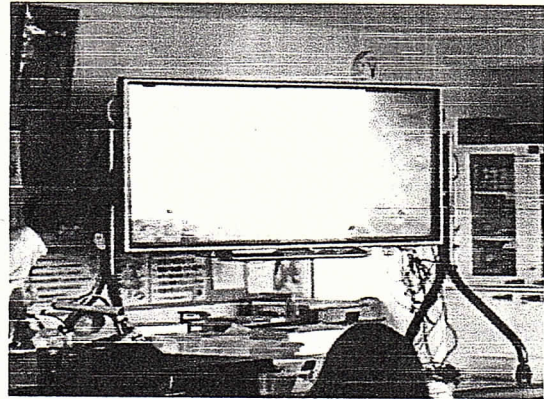
社会の授業 【江戸幕府】
電子黒板付プロジェクターにて



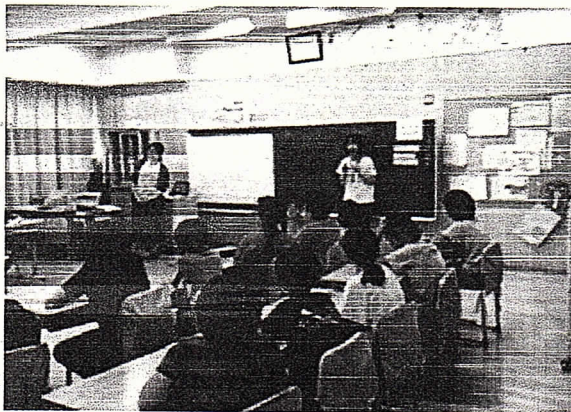
社会の授業 【長篠の戦い】
電子黒板付プロジェクターにて



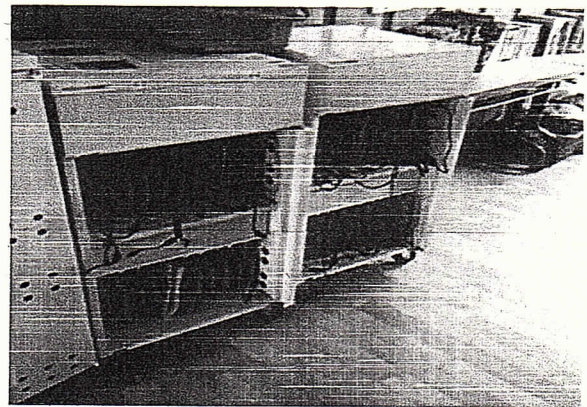
社会の授業 【江戸幕府】
一人一台タブレット端末が貸与



理科の授業【プランクトンの観察】
電子黒板にて



英語の授業 【英数字の発音】



タブレット収納庫

平成 31 年 4 月 15 日

政務活動費行政視察報告書

視察期日 平成 30 年 8 月 13 日

視察地及び項目 千葉県柏市のフレイル予防の取組について

視 察 参 加 者 西川和男 今村弘志

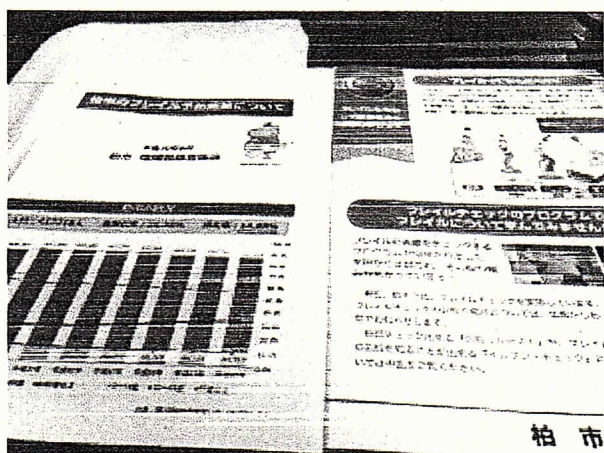
視 察 内 容 別紙のとおり

報 告 者 西川 和男



(視察内容)

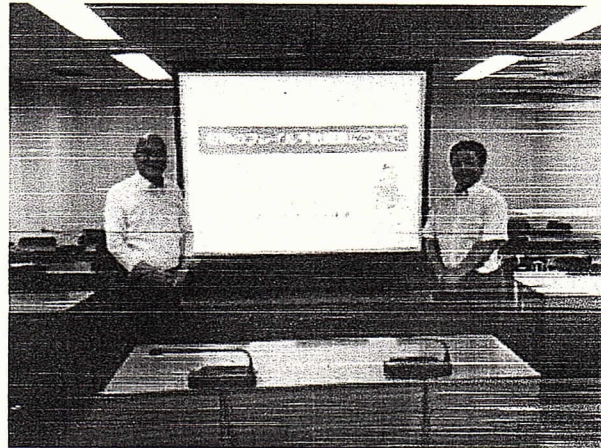
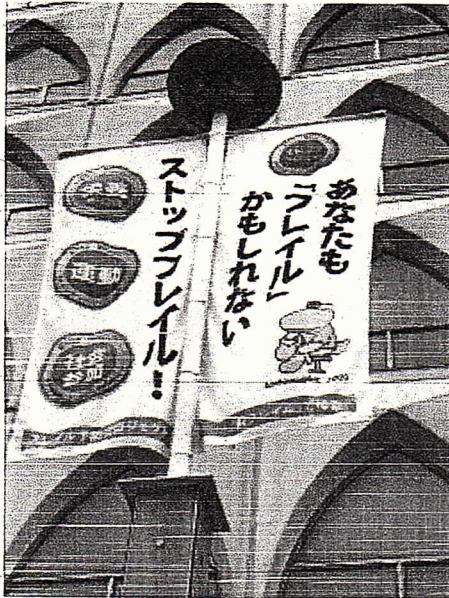
「フレイル予防の取り組みについて」、詳しくお聴きしたいと思い今村議員と千葉県柏市と一緒に参りました



この「フレイル予防」ですが、厚労省もたいへん力を入れている介護予防施策の一つです。

「フレイル」とは虚弱という意味で、健康状態から介護に至る前段階で何もしなければ介護へと向かう状態と言われています。

そこで柏市では健康寿命の取り組みとして、この「フレイル予防」に着目し、自分の健康状態を推し量る「フレイルチェック」を考案。これが「指輪つかテス」で、座って利き足とは逆の足のふくらはぎを両手で掴み、チェックするというもの。



こうして健康状態の気づきとしての一次予防の理解と啓発に取り組み、各健康施策事業につなげているとのこと。

大事なポイントは、行政主導から市民の力で推進していく点。やらされ感ではなく自分たちが積極的に進めていくところがとても大事になってきます。示唆に富んだたくさんの事例をお聴きし、とても参考になり刺激を受けました。

早速、9月定例会において「志木市でのフレイル予防の取組について」一般質問させていただき、新年度(平成31年度)でフレイル予防の推進が予算計上され、理解とその推進が始まることになりました。

平成 31 年 4 月 15 日

政務活動費行政視察報告書

視察期日 平成 30 年 10 月 11 日～12 日

視察地及び項目 新潟県長岡市 全国都市問題会議

視察参加者 西川和男

視察内容 別紙のとおり

報告者 西川 和男



(視察内容)

今回は新潟県長岡市での開催。

初日は、基調報告から先進的事例の一般報告。明日はパネルディスカッション。

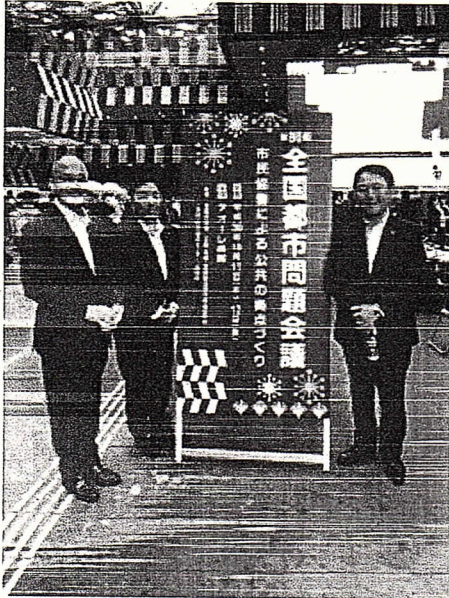


雨の一日でしたが、香川市長をはじめ他の議員さんとも一緒にたっぷり学ぶまたとない貴重な機会となっています。

今年の研修のテーマは「市民協働による公共の拠点づくり」。

市民協働と拠点づくりには、ソフトとハードの両面がしっかりとかみ合い進められなければなりません。

市民協働つまり市民力で進めたくても、その拠点が無い、という場合があります。



例えば高齢者や子育て世代が集まる多世代交流の拠点があれば、様々な活動が広がっていくことが期待され、実際にそうした活動を進めたいという声は年々増えています。

課題はどう拠点づくりを進めるか、ということになります。

ソフト面のコンテンツは取り組む側の熱意によっていかようにでも広がる可能性を持っているからこそ、予断や既成を排しあらゆる視点を総動員して「新しい拠点づくり」が出来たらと思います。

平成31年4月15日

政務活動費行政視察報告書

視察期日 平成30年11月14日～15日

視察地及び項目 栃木県宇都宮市

全国市議会議長会研究フォーラム

視察参加者 西川和男

視察内容 別紙のとおり

報告者 西川 和男



(視察内容)

2日間の日程で宇都宮市で開催されている「全国市議会議長会研究フォーラム」では、テーマは「議会と住民の関係について」。

2日間にわたりパネルディスカッションが繰り広げられ、様々な視点で議論が展開されました。

「議会と住民の関係について」のパネルディスカッション。

皆さんのお話しをお聴きし、議会活動や議員活動をどう住民に分かりやすく伝えていくか。「議会の見える化」ということになります。

大切なことは、行政の事柄の一つひとつを出来るだけ丁寧に分かりやすく発信し続けることだと思います。

議会からのアプローチをどう進めていくか。こうした議論を議会の中で醸成出来たらと考えます。

時間はかかりますが、決して「見える化」への歩みを止めてはならないと思っています。

全ては一步一步です。「議会と住民の関係」は、そのまま「議会の見える化」を進めていくことからより確かな新たな関係の構築が作り出されていくのではないのでしょうか。



ところで会場の前の黄色に色づいた銀杏並木が迎えてくださいました。

深まる秋、晩秋の中での研修となりました。